

にじ・ほし組

6月15日



ピタゴラススイッチをつくってみたい！と積み木を並べ始めました。コースになっていて、ドミノにもなっているところもあります。穴の開いた積み木がスタートになっています。「おもしろいの作っているね。ぼくも入れて。」友達が参加し始めました。何か転がしたい！と棚にあったフェルト玉を穴の開いた積み木の中に入れてと坂を転がり「わー！！」と歓声が上がりました。面白いね！と友達と一緒にやっていることで気持ちがワクワクしてきました。



「こうしたい」という自分の思いと友達の思いが違くなってしまうと、悔しかったり悲しかったりすることもあります。そんな時はすぐに保育者が声を掛けずに見守っていると、友だちが「じゃあ、順番こでやろうよ。」「1回ずつねっ。」「それならいいよね。」と優しく話しかけてくれると、「うん。」と涙も止まり、遊びがまた続いていきました。



フェルトの球は坂は転がって行くのですが穴の中から出てこない時も多く、ドミノも倒れませんでした。「あれ？なんでかな～」と友だちと考えると「ビー玉が欲しいんだけど！」と思い付き保育者のところにビー玉を出してほしいと話しに来ました。

これはどうかな？と赤いビー玉を渡すと「うわ～きれい！」「よく転がるね！」と指で転がしながら見たり、板目の上のにのせて転がしてみたりしていました。その後、多くの子がビー玉で遊び、テーブルの上のにのせると赤い光が映ったり、ビー玉に自分の顔が映ったりしていることに気が付いていきます。以前使ったことが、子どもたちの心の中に、しっかりと経験として残っていたようです。



早速、ビー玉をスタートの穴に入れてみるとよく転がり、ドミノも倒れて大成功でした！





積み木が崩れてしまっても「ま、いっか」とまた新しいアイデアが出てきて楽しんでいます。



転がっていくビー玉と同じ目線で見ると「どんどん転がっていくよ！」と上から見るのとは違う見え方がするのですね。友達の驚き、発見に「え～見せて!」「ほんとだ!!」と同じ気持ちになって楽しそうです。



数日間ピタゴラスイッチ遊びは続き、坂や長いコースを作ったり、ビー玉のお家を作ってどっちに入ってるかクイズをして楽しんだり、ブロックでもコースが作れるかもという試したりして楽しみました。積み木が入っているケースの中で高低差を使ってコースを作る発想にも驚きました。

